

日 時 令和4年12月20日（火） 午後6時30分～午後8時30分
場 所 旭川市職員会館3階6号室
出席者 委員11名
安住委員，伊藤委員，川瀬委員，小松委員，佐藤委員，白川部委員，田古嶋委員，谷委員，羽藤委員，宮崎委員，宮田委員（50音順）
事務局4名
林部長，平尾課長，熊沢係長，田母神主査
傍聴者 なし
資 料 資料19 公募及び会議の運営に関する意見一覧表

I 開会

これから第4回旭川市市民参加推進会議を開催する。

II 議事

1 「公募及び会議の運営に関する意見（提言）書」に盛り込む内容について

<会長>

では審議に入る。事務局から説明があったように、資料19は第2回及び第3回の会議で皆さんから出された意見を「公募に関する内容」と「会議の運営に関する内容」に分類して、それに対する事務局としての考え方を表に載せたものである。それぞれの意見について、最終的に作成する「意見書」に盛り込む内容とするのかどうか、そして真ん中に記載があるのが事務局の考えなので、それに対する意見の有無等について審議をしていきたい。

まず資料19について事務局からより細かい説明をお願いします。

<事務局>

今回配付した資料19「公募及び会議の運営に関する意見一覧表」は、前回までの会議で皆さんから出していただいた意見であり、一部資料12「令和3年度公募委員アンケート調査結果」で紹介した公募委員の意見内容を含んでいる。こちらを「公募に関する内容」として19項目、「会議の運営に関する内容」として12項目に分類し、それぞれの意見に対する事務局の考え方を載せた表となっている。

一点目、この表を作成した理由は、前回今年度の会議で最終的に意見書を作成するということの話したが、それぞれの意見について、実現するためにはどのようにしたら良いか事務局としての考え方を載せており、皆さんには事前に資料19右側の「意見（提言）として盛り込むか」の欄に○や×などを記入いただいていると思う。

意見の内容に対する事務局の考え方を踏まえて、意見書に盛り込むべきかどうか審議していただくため作成した様式となっており、この表を基に最終的な意見書を作成するための様式でもある。

二点目として「公募に関する内容」と「会議の運営に関する内容」に分けた理由だが、これまでに出了された意見の内容が、公募に関するものと会議の運営に関するものに分かれており、分類して載せた方が分かりやすいということ、そしてこの会議で元々議題としていた「公募チラシの評価」という中で、どうしたら公募に応募する人を増やすことができるだろうか、という議論を重ねる中で、公募自体に関する問題点に加えて「会議の運営」についても現状の問題点を把握し、それを改善しなければ公募自体に応募する人を増やすことが困難となる関連性があることが分かった。

そういった観点から、「公募」と「会議」に対するそれぞれの意見について、分けて審議をす

るべきだと考え、このような様式となっている。以上が資料19の説明である。

<会長>

それぞれの意見に通し番号が付いているが、最終的に作成する意見書にこれを全て盛り込むかどうか、一つ一つ判断をしていきたいと思う。時間を有効に使うため、あらかじめ内容を大きく4つに区切っており、下にメモ欄が入っているページがあるが、これが一つの区切りと考えていただきたい。分量が均一という訳ではないが、18時半から20時半までの2時間で、30分ずつ目安でこの4つを進めていきたいと考えている。よろしいか。

(一同同意)

<会長>

この用紙は提出する訳ではないので、右側の意見の記入、下のメモ欄への記入・書き込みなど活用しながら審議を進めていきたいと思う。

最初の1ページ目から2ページ目まで①から⑧、この8つの意見について審議をしていきたい。皆さんもあらかじめ盛り込むかどうかのメモを書かれているかと思う。あと、意見など自由に発言していただきたいと思うが、順番を言っていた方が良いか。「①についていかがですか？」というような感じで、中は読まないが、そちらの方が良いか。

<副会長>

そちらの方が良い。

<会長>

では①について意見「提言として入れた方がいいんじゃないか」、「いやこれは要らないんじゃないか」「この事務局の意見のここはどうなんだろう」などある方は、その場で発言いただきたい。

<委員>

①については入れた方がいい、大事な内容である。理由としては、自分自身も委員に応募する際、会議の時間帯や回数が応募の際の重要な要素になっている。例えば平日の午後に年間6回開催だとしたら、応募は内容によっては応募できない。18時とか早ければなんとか応募できるなという。応募の大事な要素にもなるので、「○」で考えた。

<会長>

ほかに意見ないか。「○」以外の「×」とか、「一部…」というような方はないか。「○」でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

②についてはいかがか。これについて意見、「○」「×」「△」、考えた方発言いただきたい。

<委員>

その人がどう思うかで異なると思う。最初から責任感がある人が考えれば、絶対休んじやいけないという考えがあるのでそれはいいと思うが、責任感がなくてどうでもいいと考える人だったら、もっと簡単に考えてしまう。その辺をどう考えるかというのは「提言」としてどういう書き方にするかはもう少し練らなきゃいけないなと思った。

<会長>

どのように盛り込むのか盛り込まないのか、盛り込むとしてもどのような書き方にするのかということが重要ということか。

<委員>

そうである。

<会長>

皆さんいかがか。今の意見に関して、あるいはそれ以外の意見があればお願いします。

<委員>

載せてしまうときりがないのかなという部分もあり、事務局でも理解して欲しいというところは書いているので、私は「×」でいいのかなと思う。

<会長>

これは書いて欲しいという方はいないか。

<委員>

同じ「×」の意見だが、最初の会議の中で事務局が説明するということか。

<事務局>

そういう方法もあるが、こういうことが基準などに盛り込まれている訳ではなく、そういった対応もできるということでこちらで入れた次第である。

<委員>

あまり公募チラシに情報ばかり載せなくてもいいと思うので、私も「×」で。

<会長>

ではこれは「×」ということによろしいか。

(一同同意)

<会長>

③についてはいかがか。「○」「×」「△」…その他具体的にいかがか。聞いてみたいと思う。いかがか。

<委員>

簡単に分かりやすく載せた方がいいと思う。

<会長>

「簡単に分かりやすく書いてください」と、やはり提言した方が良いと。事務局の考え方の表現でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

④についてはどうか。

<事務局>

④について、公募チラシから受ける印象ということで書いている。チラシから感じられる雰囲気という点で、稚拙な質問は許されない印象を受けるかというような、そういった意味である。

<会長>

それに対しての事務局の考え方で、文末が意識すべきと考えますと書いてあるが、それはその雰囲気が汲み取れるようなものを作るよう促すということか。

<事務局>

そうである。そういったことを意識できるような書き方にしてくださいというような。こちらから発信するということも考えていくということ。

<会長>

ということで、いかがか。これはやはりあった方が良くと思うが。

(一同同意)

<会長>

ではこれは「○」、提言に載せるということで決定した。

⑤、「基準のこの条文にあるから…」ということだが、そうじゃなくてもよいのではないかということだが、副会長いかがか。

<副会長>

附属機関のことが分かる内容に要点があるんだとしたら、載せておいた方がいいと思う。

<会長>

今はそれが応募資格とはなっているので、これはそのままいいのではないかなということか。

<副会長>

そうである。

<委員>

自分は「×」だったのだが、仮に旭川近郊の東神楽町・東川町から「旭川に興味がある」という理由で応募して、もし冬期間に吹雪等で交通機関の関係で遅刻する場合を考えたら、時間がその分延びてしまう。ならば旭川の方だけで応募してやってもいいのかなと思い「×」にした。

<会長>

私の考えだが、興味があるのはすごく嬉しいことだが、それなら自分の街で参加していただくのが一番いいのではないかと思う。あえて「自分の街以外の所に…」とまで拡大する必要はないかなと思った。では、「○」の方がいいんじゃないかという意見はないか。「×」でよろしいか。

(一同同意)

<委員>

この問題は私も「×」で、当事者が考えた方がいいと思い「×」にしたが、2年間の任期で例えば途中で変更になった場合は要件的にどうなるのか。

<事務局>

転勤した場合は、基本的には旭川市に通勤又は通学しているという要件が外れた時点で、委員としての資格は失うが、例外として「引き続き、当該委員の意見を求めることが適当だと判断する場合はこの限りではない」ということになっている。そのため、引き続き委員をしていただくということも可能ではある。

<委員>

承知した。一年後に転勤の心配があっても、とりあえず応募するのはそれほど支障はないということが分かった。

<会長>

⑥報酬に関してだが、これはいかがか。丁寧な説明が書かれているが…。現状では難しいというのが実際だということ。

<事務局>

実際のところは難しいのではないかといいるところだが、そうであっても、意見として何かしら働きかけをしたいというのも会の意志だと思う。その辺を意見書の中に組み込むかどうかという観点で審議をいただければと思う。

<会長>

もう今回で4回目の会議となるが、この会議に参加することへの対価として、妥当性と言うか、その辺も吟味して御検討いただければと思う。どなたか意見はないか。

<委員>

農業センターの報酬が0（ゼロ）円というところなのだが、非常にバスの便も少なく車もないと行けないような所である。そのため、交通費程度、最低でもそれぐらいの報酬は工面して出してあげた方が良いのではないかと思う。

<会長>

実際にその立地条件、交通の便というところは、応募者がいない場合には検討すべき事項になってくるのではないかと思われる。

<会長>

一律というよりは、その公募がないところに対して報酬がないことのマイナス要因は検討すべきであると思う。

<委員>

なかなか応募しようという感じにならないと思う。せめて交通費とかその程度は出して欲しいなと個人的には思う。

<会長>

7, 700円の所の方が応募多かったのか。

<事務局>

附属機関は条例において報酬7, 700円と決められている。

<会長>

附属機関ではないということか。

<事務局>

そうである。附属機関ではない所は大体2,000円が多くて、ほかは交通費程度としているところ、その2パターンが多い。0（ゼロ）円というのはここぐらい。

<委員>

附属機関のもう一つのパターンが年間でいくらというのもあった。1年で何回かは分からないが、1年の最後に振り込まれるパターンもあった。

<事務局>

それは具体的にどちらの機関になるか。

<委員>

豊岡まちづくり推進協議会。

<事務局>

それは附属機関ではなく懇談会になる。

<委員>

そうである。確か懇談会の方でその交通費程度というか、1年間やってトータルでいくらと言われている、そういうパターンもある。

<会長>

その都度ではないのか？

<委員>

その都度ではなく、以前は都度だったのだが、地域によって回数が随分と違って来るため、トータルに変更したと思っている。年間でいくらで交通費程度ということにしてやったこともある。

あと、ここの農業センター運営懇話会は、以前にイベントで味噌造りに行った時に、味噌だけではなくそこで採れたトマトとかも試食してみると言われ食べさせてもらって、それがすごく美味しかった。いわゆるお金だけじゃない、そういうのも農業関係の所ならあるのかなと思った。そういうのはなかなかアピールしづらいとは思うが。

<会長>

まずそこに行っていていただいて関わっていただくということ。

<委員>

そうである。そういう感じを覚えた。

<会長>

今、話の中心は0（ゼロ）円の所については問題ではないかということになっている。だから増額という全体の底上げという訳ではなく、交通費程度は支払われるべきではないかという意見が多く出ている。そのそういう提言の方がよろしいか。

<事務局>

公募の応募が少なかった理由を分析すべきであって、その分析の一つの要因に報酬がほかより少ないとかということを考えるべきだろうか。

<会長>

それであつ、そこに「地域性」、交通の便という要素が加わる。

<事務局>

承知した。

<会長>

応募人数が少ない所は、こういう交通の利便性を検討して、それで車のない方が来る場合どうなるかということであろう。

<事務局>

公募が来ない原因をしっかりと分析して、農業センターであればなかなか来づらいという側面もあると思う。そういった「なぜ来ないのか」ということをきちんと分析してそこを底上げするというふうにすべきだと思う。その中に利便性であったり、報酬とか謝礼とかの底上げというか、そういった部分も入ってくる感じとなろうか。

<会長>

そうである。実費というのは難しいので。でも報酬が出るようになったら、場合によってはバスがなかったらタクシーを使うとか、そういったことで「やってみようかな」という参加意欲が出る可能性はあると思う。よって、提言の意見の書き方をもう1回検討していただくということでしょうか。全体としての増額を望んでいるわけではないということ。

皆さんそれでは「○」の方向で。申し訳ないが、事務局の方でもう一度お願いしたいと思う。

<事務局>

承知した。

<会長>

次⑦「女性を増やした方が…」ということだが、今は同数になるような考え方であり、女性を多めにということにはしていないということ。この⑦の意見も応募する女性を増やすということなので、「女性の定員を増やす」という意見ではない。応募する女性が増えるような何か工夫をするべきということか。

<事務局>

そういう意見だと受け止めている。

<会長>

そういう意見を出す。応募する女性が増えるような工夫を各委員会ですると。

<事務局>

そうである。例えばこの委員会は特に女性の委員は多いけれど、他の機関は少ないのが現状。「うちの委員会では女性の方が何人います」など、そういうことをチラシに載せることができる。「それだけ女性が多いんだったら自分も応募してみよう」という人も出てくると思う。そのような女性が応募しやすい取組である。チラシであったり会議の内容であったり、そういった環境を作るための取組をする。

<委員>

市役所業務は建設、土木、福祉もあり、男性が必然的に業務を持つものが多いが、例えば福祉関係、教育、子育てに関する委員会・審議会の割合を若干増やしていけば、女性も意見しやすいと考えて、女性自体の応募数も増えると思う。委員会等の人員を増やすことは賛成だが、具体的に

どうするかというところが課題だと感じた。

<会長>

増やす工夫もすべきということで、賛成の意見が出てきたけれど。

<委員>

実際には女性の公募する方も実際4割と少ないという、委員会の内容の比重変えたりするとかそういうのも具体的な内容としてはあるのかなと考えた。

<会長>

提言を受けて、どういう工夫をするのかというところは各課で考えていただくことかと思うが、もう少し踏み込んでその枠組みを変えるのも必要ではないかという意見でよろしいか。

<委員>

そうである。この意見としては賛成、反対ではないけれど、更に具体的な部分といった感じで。

<会長>

⑦は意見として盛り込むということに対して不要という意見はないか。盛り込む方向でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

それでは盛り込むで、今出た意見は事務局で参考にしてもらい、事務局の考え方も場合によっては少し修正する可能性はあるか。

<事務局>

最終的な文面は修正の可能性はまだあると思う。

<会長>

では最後⑧について、公募の際に時間が変動する可能性があることを書いた方がいいのではないかという意見だが、これはいかがか。裁量において判断してもらうというのが事務局の意見だが。

<副会長>

私は「×」だと思う。時間はそれぞれの場で議論しており、個々の会議の裁量であることからこちらが特に承知する必要はないと思う。

<会長>

「×」という意見だが、入れた方がいいという方はいないか。入れなくても会議の時にそれぞれで判断し、何とかやりくりして決めるというのが会議の現状でもある。「×」でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑨「QRコード」ということだが、これはいかがか。QRコードでホームページなどでその手続きの入り口にいくという仕組みはもうあるということか。

<事務局>

そういうのを取り入れるところが比較的多い。

<会長>

それを「チラシでやっていいんだよ」というか「やってるところがあるよ」っていうことを共有している訳ではない？個々で違うと思うが。

<事務局>

そうである。載せてないところもあるので、現状の基準の中でもQRコードなどを積極的に活用する、とまでは盛り込んでいない状況である。

<会長>

載せることに問題はないか。

<事務局>

問題ない。

<会長>

QRコードで全部が解決するというものではないが、応募というところの入り口への誘導という手段ということでいかがか。

<委員>

「〇」でいいと思う。少しでもそのページに飛べるような所があれば応募者も増えると思う。ない機関にも積極的に付けていったら良いと思う。

<会長>

QRコードを載せるということも積極的にした方がよいという提案で、ということよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑩「ひな形を作ってはどうか」ということだが、これはいかがか。

<委員>

私は「×」で考えた。理由としては、各協議会などでアピールするのが違ったりすることがあり、様式をひな形のとおりやることを決める必要まではないと考えた。「イラストなどもなるべく入れた方がいい」という提案もあり、イラストを含めたひな形を作るというのは各委員会などの裁量に任せてもいいのではないのかなと思う。公募の人数にそんなに影響ないということで「×」と考えた。

<委員>

私も実際に作ることがあった。色々な団体で公募チラシを作る人がいて、その人のスキルとか結構重要だと思なので、それを各担当に任せるのは賛成だけれど、ある程度の見本があってもいいのかなと思う。以前配布された資料にあるようなものがあってもいいのかなと思う。

<会長>

各公募のチラシの見本は前回3つほど見せていただいたが、庁舎内で他の課の附属機関のチラシは見られる環境にあるのか。

<事務局>

公募の選任マニュアルの一番最後に「こういった具体的なチラシの例がある」ということで、実際のを3つほど付けており、市民活動課の内部のホームページ中にも載せている。市民活動課が作ったひな形ではなく、良い例として載せている3つは全体で見られるような状況である。

<事務局>

実際に作成したチラシの共有という点では、旭川市役所に「市政情報コーナー」という所があり、そちらの棚に市民も含めて閲覧できるようにはなっているが、今のところ、実際のチラシを取りまとめて一覧で見られるという状況にはなっていない。実際に出てきたもので比較できる環境があれば、より工夫も促されるのではないかということか。

<委員>

見本集とまではいかないが、こういう感じだったら良いというか。「集」じゃなくても1枚2枚でもあればいいと思った。

<会長>

各部署ではチラシの変遷は把握していると思うが、「今年の公募チラシ一覧」みたいなものがあれば良いと思う。大変な作業にはなると思うが、それと資料15の概要のようなものがあれば、今日はこの機関のチラシを見て、というようなこともできる。実際のチラシと概要等を見ていくことで更に気付けるものがあるかもしれない。ただ、現状でもいくつかのものは見られるようになっているということによいか。

<事務局>

そうである。

<会長>

方向性は「○」という意見が出ているが、ひな形を示すというのは「×」で。実際のもの共有を今後も続けてもらうというような、意見書には入れないけれども、事務局へのお願いということではいかがか。

(一同同意)

<会長>

では、意見書には入れない。

①、改めて注意喚起するために入れた方がいいかどうかだが、これについてはいかがか。

<委員>

ここ、私は何も書いていない。ただ意見としては、例えば「公募チラシコンテスト」でもあれば作成する側も張り合いがあるのではないだろうか書いています。内部で、例えばこの市民参加推進会議、この会議の中でやってもいい。大々的な話じゃなくても、チラシを作成する人も張り合いがあるかなと思った。

<会長>

働きかけとしては、そういう方法もあるということか。

<委員>

もう過ぎた話だけど、先ほど報酬の話があったと思うが、色々と考えてみると0（ゼロ）円というのは「あえて応募する人がいなくなるように…」という意図はなかったのだろうか？

<事務局>

担当課ではないので本当のところは分からないが、あえてそれを狙う理由はないかなと思う。

<事務局>

0（ゼロ）円の農業委員会は、元々市の職員だけで運営していた機関であり、平成31年3月まで懇談会という位置付けではなく、ただの集まりというか職員だけ集まって話し合いをして、そういう機関だった。それを市民活動課が懇談会として位置付ける必要があるという働きかけをして、平成31年3月に「懇談会」という形に変わったもの。市の職員でやっていたので報酬はそれまで全く支払われていなかったの、その名残から0（ゼロ）円というのが継続しているような状態である。

<委員>

考えてみたら、こんなに遠いところに交通費も出さないというのは、少し非常識だなと思っていた。当然、誰も応募する人はいないだろうなと。

<会長>

一番難しいところかなと思う。やり方も市役所の職員、おそらく決まったようなやり方だということに、本当に市民の意見をどう欲しているのかというところが。チラシは素晴らしかったが、その辺の交通費とか、実際に公募委員が応募してきたら運営も大丈夫なのかなと感じてしまった。⑪に戻りたいと思う。

⑪について、改めて検討していただくということになるかと思うが、チラシコンテストは今は置いておいて、「○」か「×」かということ意見はないか。⑩を「×」にしたので、⑪で「でもチラシは大事だ」ということは強調しておいた方がいいかと思うが、「○」でよいか。

（一同同意）

<会長>

⑫配布場所だが、具体的には見通しが立てられないという事務局の考えだが、委員会からの提言として「こうして欲しい」というふうに考えて問題ないか。先ほどQRコードの話が出たが、個別でそういうものを使ってできる方と、役所に足を運んだ時に色々と情報を集める方、インターネットの情報を活用していない方達にはこれはあった方がいいのかなと思う。

<委員>

これは私も同じ意見で、市政情報コーナーに色々なチラシが置いていて、その一部に公募の関係の書類があるが知らないと分かりづらい。そういったものについて、ここに公募コーナーの書類があるというような掲示があればいいと思う。これについては新庁舎でも対応がそれほど難しくなく、永山公民館にもこういうチラシが置いてあるが、公募コーナーとしては他のと入り交じり分かりにくい。ある程度公募コーナーの場所だというのが分かる掲示や工夫があればと思った。

<会長>

実現するかどうかはもちろん分からないが、提言として入れるということでもいいのかなと思う。目立たせるということで、この⑫も提言することよろしいか。

（一同同意）

<会長>

では⑬、年齢についての上限はいかがか。

<委員>

私は「×」にしたけれど、現状で問題がないのと、私が委員になった時おそらく80代ぐらいの方が来ていたと思う。だから見てる人は見てるのかなと思う。

<会長>

60代以上の方が人数的にも多い印象だと事務局からも話があったが、年齢で二の足を踏むということがそうそう起きている訳でもない。ただ、上限がないということを入れる弊害もないのかなとも思う。注釈を付ける必要もないと思うけれど、会議に参加することが物理的に可能であれば、というのは余計ややこしいか。

<事務局>

チラシとしては簡潔さから外れていくような感じはする。

<委員>

高齢の方はこの会議みたいに夜遅い会議だと無理だなと思う方は応募しないと思われる。先ほどの女性の応募者が少ないというところに関わってくるが、女性は結構夕方が忙しい。子どもの習い事の送迎とか、子育て世代の方はこういう会議には時間的に参加しづらいのかなと思う。会議の時間が明確に出ていれば大丈夫だと思う方は応募すると思うし、自分の体力的に無理だなと思う方は応募しないと思う。

<会長>

あえて書かなくてもいいのではないかとということでよろしいか。⑬「×」で良いか。

(一同同意)

<会長>

前半が終わり今19時40分だが、5分程度休憩に入る。

《《休憩》》

<会長>

45分になったため会議を再開する。⑭これについて意見はないか。積極的に発言がない場合、指名をさせていただきたいと思う。

<委員>

これは非常に稀なケースでもあり、公募の人数を増やすということに関してはそれほど影響がないと思うので「×」と考えた。

<会長>

これはここに書くよりは、委員になった方々にそれぞれの委員会の中でお伝えいただく方が現実的かなと思う。公募では書かなくて、書くのが実際に複雑な説明文になるということであり、現場で周知してもらう方法の方が良いと思う。よって、⑭を提言として盛り込まず「×」でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑮「作文」であるが、こちらはいかがか。事務局の考えで書いてあるように必須ではないとい

うことらしい。最初から求めているところもあるということで、事務局の考え方の内容で提言してもいいのかなと思う。「○」の意見と「×」の意見でいたら発言お願いします。

<委員>

「○」にしているが、事務局としての考え方に納得しており、学生目線で考えると、必要事項のみ書いて出せる方が気軽に応募しやすいのかなというのはある。「作文あるなら応募しない」という考えは、正直学生だったら持ちやすいのかなと思う。本当に必要な、人選するために必要ということぐらいならいいかなと思う。一応意見として出すのが方がいいと思い「○」にした。

<会長>

改めて周知徹底ということで、これは提言した方がいいと思う。

(一同同意)

<会長>

次⑯。声かけは今もしているところがあるということだが、これは他にも意見書で書くことで、他の委員会にもやってもらいたいと、そういう提言になるがいかがか。

<委員>

声かけしてもいいかなと思う。より多くの若い人が色々な公募に来てくれる可能性があるのいいと思う。

<会長>

声かけしても本当に駄目な時もある。毎年という訳にもいかないのですが、しかし声をかけなければ何も変わらないということは言える。これも「○」でよろしいか。

(一同同意)

<会長>

次⑰「若者枠」である。

<委員>

これはおそらく自分が言ったと思うが、「若い人専用枠」というのは語弊があり「学生枠」という考え方にしてもらった方が良い。「若い人」となると書いてあるとおり「20代から30代」となるが、「学生枠」となると「18歳以上22歳以下」の、より若い「学生目線」というのがあってもいいのかなと思い発言した。自分は「△」で考えていた。

<会長>

「学生枠」という意見が出たが、いかがか。大学生や専門学校生ということ。

<委員>

公募する内容によっては要らない所もあるとは思いますが、幅広い意見が必要となる会議の内容であれば「学生枠」というのは必要かなと思った。もし「若い年齢層の意見が欲しい」と判断してもらえるなら、社会人とか30代に近い人よりは「学生枠」というのが一つある方が、より若い意見が求められるかなと思う。

<会長>

20代30代も実際には少ないが、一律ではなく主体的に委員会の方で設けたいというような

ことを申し出て設けるという、そういうことも可能なのか。

<事務局>

検討は必要だが、そういった運用はできなくはないと思う。例えば「学生枠」というのもあるし、「お子さんがいる枠」とか「障害がある人の枠」とか。あと「どういう分野の企業に勤めている方の枠」など、審議する内容に応じて、各委員会が独自に公募に枠を設けるということも良いアイデアかなとは思う。

<会長>

⑰は「若い人専用枠」ということで取り上げられた形だが、そこそこの個々で欲しい人材と言うか、「そういう方々の枠を設けるということを検討してもいいのではないか」という、そういう提言にしたらいいと思えてきたが、皆さんいかがか。再提案になってしまったが、こちらが皆さんに賛同いただけるなら事務局の方で検討いただければと思う。これは「△」になるのか。

<事務局>

そうである。

<会長>

それでは「△」で、各委員会で判断をして、欲しい人材を獲得できるような、そういうような意見として検討してもらおうということでもよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑱は公募委員の勧誘のような…これは規定があるということなので、やって欲しいがやっていないということか。「よし、このイベントでやるぞ！」でもなければ、できないと考えるが。

<事務局>

イベントを開催するので精一杯かもしれない。

<委員>

イベントと公募のタイミングが合わないと思うのかと思う。

<会長>

確かに、公募の度にイベントをやる訳ではないし、その企画したところの公募じゃなくても声かけするという…。

<事務局>

斬新だと思う。

<会長>

職員も忙しいのでそれどころではないと思うがこれはいかがか。規定にはあるので、また改めて周知徹底ということはできるということだが、こちらは入れた方がよろしいか。再認識してもらうために入れるという考え方もある。おそらく行われていないのではないかということなので。

<委員>

資料を見ると、「機関の審議事項に関わりのある団体」とか「施設利用者にお知らせする」というのが、左側の記述の「何らかのイベントで一般的な市民に声かけ」というのと重なっていない

と思う。この規定の中に、努力義務というかほかのイベントも追加するとか、そういったことをするならばこれは「○」になると思う。公募の人数を増やしたいという意味では、現行の規定の中に入れるならばこの項目を入れて、より公募する機会や職員も増やすとか、そういったこともできるという意味では「○」にしたいと思う。

<会長>

自分の担当する機関の企画やイベントではなくても、ということか。

<委員>

現行にほかのイベントも追加するとか、そんなところか。現行だと関係者とかそういった人だけの声かけになっている。それはそれですごく有効だとは思いますが。

<事務局>

確かに関係者の声かけという面では言及しているが、関係者以外での声かけという点ではこれまで言及したことはなかった。今まで以上に積極的な声かけ、ある意味営業をしていただけるような促し方というのはできると思う。具体的にマニュアルの条文をどうするかということはさておき、そういった視点で考えていくべきかなと、今の意見からそう感じたところである。

<委員>

視点だけでも向ければ、それはそれで「○」でいいかなと考えている。

<会長>

積極的に市のイベントであれば、そこに企画した委員会ではなくても、声かけしてもいいのではないかという提言をするということだがいかがか。していただけるかどうかはわからないが、入れておくか。

(一同同意)

<会長>

ではこれも「○」で。文面の方よろしくをお願いします。

公募の最後⑩。人数の割り振りが適切なかということのようだが、算出方法がないということであるが、今まで毎年どうであったかという履歴の分析はしているのか。

<事務局>

過去に何人の公募があって募集して、何人応募をしたかというのは記録として残っている。

<会長>

人数こんなに要らないんじゃないか、というような所もあるんじゃないかということかと思うが。ただ、これは今踏み込めることではないのかなと感じている。出されている数字がそんなに大きい訳でもないのだから。○○委員は、「○」と「×」どうされたか。

<委員>

付けていない。これは分からない。

<会長>

私もこちら検討できればいいなとは思いますが、今は難しいのかなという、それよりも今は公募の人数を増やすということの策を練った方がいいのかなと思う。こちらは提言した方がいいという方がいいならば「×」でいいかと思うが、よろしいか。

(一同同意)

<会長>

では次5ページ6ページの「会議の運営に関する内容」について審議していく。まず①についていかがか。

<委員>

こちらは公募の立場から見れば誰でも分かる言葉を使って欲しいので「○」。ただ、平易すぎることに注力しすぎると、かえって専門家が分からなくなるという、そういった二面性があるのではないかと思う。公募の側としては、誰でも分かる説明をして欲しいというのは当たり前。ただ、そのために理解している人にまで、かえって「みんなからすれば当たり前なのに、私だけ知らないために足引っ張ってるようではまずいな」と思ったりもしてるので、私はどちらの立場も分かるなという思いで「一部可」にした。

<会長>

これも意見が結構出ていたと思うが、アンケート結果だったか。専門用語が、というようなところで「平易な表現をしてください」と言われないと使ってる方は分からないことが多い。そのため、これは入れた方がいいのかなと私も思っていた。専門用語0（ゼロ）は無理だけれど、そうでなくてもいいものは変えるというきっかけになると期待したいところ。

「×」の方はいるか。こちらは「○」ということによろしいか。

(一同同意)

<会長>

では②について、こちらの会議でも初回か2回目かで少しオーバーしてしまったことがあったが、こちらは事務局の考え方の提言をして良いのではないかと思うが、いかがか。

「同意を得る」と言うのと当然のことではあるが、「取り決めをする」など言及してもらえれば何の対策もないということが減るかと思う。こちら「○」によろしいか。

(一同同意)

<会長>

運営の③。こちらは委員の方が言い出せないことを意見として挙げていただいた。こちらについてはどうか。

<委員>

自分もこんなこと発言してははずれじゃないかなと思いつつ話をしてるが、それはもう仕方がないと思う。議事を進行する会長が当てるという方法で良いのではないか。

<会長>

この意見は、委員から出さないと運営側は絶対に気が付かないので、こちらは提言した方が良いと思っていた。反対の方おられるか。いなければこちらも盛り込むということによろしいか。

(一同同意)

<会長>

次④、今おっしゃっていただいたが、「場合によっては指名する」こちらもぜひ提言していただけたらと思う。「○」によろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑤は先ほどの「若い人」とか「学生卒」と繋がりがあるが、「自分と同年代の人がいると発言しやすい」、「同性の人がいると…」と、やはりそういうものである。どのような立場の方も、発言しやすくして欲しいということになるかなと思う。事務局の考えの最後のところに「一人でも多く発言できるよう場の雰囲気作りは大切」ということが書かれているので、このままでもいいかと思ったが、こちら盛り込むということでもよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑥だが、傍聴は認めているので、オブザーバーという形で参加してもらうことも重要だということ提言していただけると、おそらく敷居が低くなるのかなというふうに思っており、こちら入れてよろしいか。

(一同同意)

<会長>

⑦、こちらは新庁舎ができるので入れないでよろしいか。これは「×」で。

(一同同意)

<会長>

⑧、⑨。こちらはどちらかにするという事となると、もう一方の都合が悪くなる。検討し続けながらやってくしかない。今後何か解決策ができるかもしれない。対面じゃなくても、機密性の高い会議システムなど、もしできたらお互いが可能になるかもしれない。これは意見としては出してもらい、検討していただくということではいかがか。現状の意見を知らせていただくということだが。

<委員>

私は出すかなと思ったが、自分が都合の悪い時間帯であれば、おそらく応募することもないだろうし、問題は起きないんじゃないかなと。

<会長>

「公募が増えない」とか「女性より男性が多い」とか全部繋がっている問題ではあるけれども。

<副会長>

事前に皆さんの予定を聞く日程表があるので、ある程度は時間帯によってこの時間は忙しく、この日はどうにか組み合わせれば大丈夫なので、こういう日程表をいただくのは一番ありがたい。

<会長>

もしかして、こういった調整をしていないところはあるのか。

<事務局>

個別具体的にはあずかり知らないところであり、その辺のデータは持ち合わせていない。事務局が担当しているもう一つの附属機関では、同じような日程調整を行っている。紙で回答をお願いしたり、その会の最後に次回の日程を対面で決めたりとか、そういった形で色んな手法で決め

ている。

<会長>

第何曜日の何時から…とか、あらかじめ決めているところがあったら…。

<事務局>

そういう所もあるかもしれない。

<会長>

それだと、事前に決まっているから何回かに1回は調整ということはあるかもしれないが、この会議のシステムの方が良い。都合を確認し合って、できるだけ多数が参加できる決め方が。この日程調整を事前に行うというようなことを提言の中に。

<事務局>

はっきりとは分からないが、大体の会議ではもう行われていることかもしれない。聞いたことはないけれど、そもそも委員の方々が集まらなると会議にならないので。あとは定足数として半数、過半数というところも規定している所も多いだろうし、そういった調整は、何らかの形でしているのではないかなと想像する。

<会長>

現実的に双方は相反するので、解決策が本当は出ないけれど、でも意見は出してもいいかなというふうに私は考えてみた。「○」の方「×」の方聞いてみてもよろしいか。「○」の方。

《挙手。「○」が過半数》

<会長>

「×」の方、出してみるかどうかということか。それで何がすぐ変わるという訳ではないが。

<委員>

⑨の意見は、例えば今現在のこの会議を、昼間に開催して欲しいと、そういう意見か。

<会長>

そうともとれるし、昼間の委員だったらやれるかもしれないという両面があるかと思うが。

<委員>

しかし、これはチラシの段階で、昼間開催か夜間開催ということはある程度決まっている。それならば、夜間開催と言っておきながら、途中から「昼間開催して欲しい」とか言われるということか。それはちょっと…。

<会長>

そちらは今後の検討事項ということでは考えられるとしても、この条件で、と公募したものは途中では変えられないと思う。

<委員>

それで意味が良く分からないのは、決まってるのにそれを途中で変えようということを求めるのはどうなのか、というところ。

<会長>

私は、「今後は」という意味に捉えていた。

<委員>

今後と言ったら2年間終わってから、ということか。

<会長>

今後もし自分がやるんだったら夜の方がいい、昼の方がいいなということ。

<委員>

それもまた難しい。その方も次にまた委員になるかどうか分からない。最初から昼間がいいと思っていれば、そういう所を公募して入っていけばいいので。あえて夜間の方に参加して、昼間がいいと言われても困るなと思った。

<委員>

きっと公募の人は選べると思うが、公募ではなく団体から来るような人で、誰を人選しようかとなった時にそういったことは大きいのかなと…。

<委員>

それはそちらの内部の話なので、時間が合わないので出られないというしかないのでは。

<委員>

委員会の意図で、主婦の子どもがいる母親とかターゲットとするなら最初から昼間にするとか、学生とかあるいは教員とかターゲットにするなら夜間にするとか。そちらで事前に考えて時間設定するというので、基本は一番最初に公募のチラシに書く内容でいいんじゃないかと思うが。

<会長>

事務局の考え方にあるように「重点的に意見を聞くべき世代などに合わせて開催時間を変える」若しくは今それがかみ合っていないというのなら、そうしてくださいという提言は効果があるのかなと思う。入れるか入れないか、それぞれで判断して広報をするか。公募に関する内容では、時間に関する提案はなかつたらどうか。

<委員>

一番最初の①では、公募のチラシで実際の開催時間を具体的に示した方がいいという意見がある。

<会長>

それでは、周知して判断してもらうということか。

<委員>

ただ、主婦の方が公募される時に「昼間の時間帯が動きやすい」ということだけ意見するなら、それは「○」だと思う。事務局の考え方を入れるというのは、それを考えてチラシに反映させるというような、そのような認識で良いか。

<会長>

先ほど「○」の方「×」の方と聞いたのだが、もう一度お願いします。

<委員>

今、決を取る内容というのは具体的にはどういう内容についてか。

<会長>

この⑧, ⑨の意見とそれに向けた事務局の考え方を提言の中に盛り込むかどうか, という事。

<委員>

この会議は子どもの面倒を見ている方が少ないので, そういう方もターゲットにするためには次回の2年後, 1年後の新しい委員会ではそういう世代に合わせて開催時間を柔軟にというのは「次回は昼間にしよう」とかそういった意味合いの提言か。

<会長>

そのような検討も有りではないかと思うが, この会議をそうするというものではない。個々での会議の状態に合わせてということになるが, 委員の方の時間帯の都合ということも考慮して欲しいという意見になる。

<委員>

これだけ迷っているのなら, 載せて良いのではないだろうか。

<会長>

では十分に議論をしたということで, 載せるということによろしいか。

(一同同意)

<会長>

最後は⑩, ⑪, ⑫。皆さんに意見をいただきながら資料の工夫をこの会議で重ねてきて, 今回試みたのは皆さんも活用して下さった方が多いようで, 非常にこれはいい形ができてきたと思っている。これはぜひほかの機関もやって欲しいと思うので, 「○」で良いか。

(一同同意)

<会長>

何とか全て終わることができた。それでは, 最後に事務局の方から願います。

<事務局…《次回の日程調整及び会議録(案)の確認方法について説明》…

III 閉会

<会長>

以上で令和4年度第4回会議を終了する。